

日本アマチュア無線の再建を志して

日本アマチュア無線連盟会員・東京工業大学助教授 大河内正陽

戦争の勃発と同時にアマチュア無線の活動は世界的に封じられてしまった。戦終った今日アマチュア無線は戦塵の洗礼を受けること最も僅少であった南米の局を先陣として再開される模様である。Ham の本場であった米国では先ず 10 月 15 日 112Mc の許可を与え漸次低いアマチュア周波数帯に拡張する予定といわれる。我国のアマチュア無線の再興は、種々の悪条件下にあって他国よりは遅れるであろうが、我々は空に還れる日の一日も早いことを望んで種々の努力をなしつつある。そして之を機会に日本に於けるアマチュア無線を隆盛たらしめ文化的平和的新日本建設の一脚を担わんがために、アマチュア無線取締規則の改善を成し遂げたいと望んでいるのである。

アマチュア無線の特徴は種々の興味を与え得て、しかも各人の有する興味の種類を限定することのない点にある。アマチュア無線家の中には通信工学の理論を探究することに興味を有する者、未知の外国人と親しく話を交し親愛を感じることの楽しさを味う者、他人の通信し得なかつた絶海の孤島と通信しそこより QSL カードを得ることを誇るもの、新しい送信機、受信機、空中線を設計しその良き動作を期待することに興味をもつ者、電報送受を行い他人に奉仕することに喜びを感じる者等種々の種類のものを含んでいる。私はその中のどの種のアマチュアが良いアマチュアでどの種が悪いアマチュアであるという差別はつけたくないと思うのである。各人が思うままに楽しんでいることが自然に無理なくその国の無線技術を進め、国民一般の科学知識を高めてゆくのである。之に反して興味のない無理押しつけの科学教育は常に必ず失敗に終つて来た。アマチュアはその設備を簡単に変更し得る流動性のために、常に最新の技術を容易に取入れてその国の高級部分品の趨勢の一部の鍵を握つて来た。又洪水暴風雨等一旦公衆通信杜絶の際は非常通信として大きな活躍をなしとげて来た。

ここで話を我が国のアマチュア無線に限るならば、アマチュア無線界には世界的に相当の実力を認められ乍ら、社会一般に対する活躍は全く微々たるものに過ぎなかつた。此の責は一重にアマチュア無線抑圧政策に帰せらるべきと私は確信するのである。それでは何故之が抑圧され来たつたかというとそれが有用な空の一部を占有して、お上の仕事である他の通信機関に妨害を与えるというのが唯一の理由である。しかるに欧米では我国以上に通信が輻輳しているにもかかわらず、アマチュアを奨励し、大きな電力を許して何の障害も感じなかつたのである。障害の多いところにこそ、それを克服すべき技術の進歩が生まれる。

戦争の終つた今日、打ちひしがれた我国を平和的高度文化国に再建するために。永久に変ることのない相互の理解に基いた国際友好に資するためにアマチュア無線奨励を願うが故に新規則草案を作製して当局宛手交したのである。主なる改正要點についていさか説明を加えておきたい。

1. 実験局の概念を離れてアマチュア無線局たらしめること。

アマチュア無線を成可く多数の人々に興味あるものにしたい。そしてその興味の種類の選択は各人の自由に任したいと云うのがその眼目である。

2. 出願手続を簡易化すること。

戦争前のように願書を書上げるのに 1 カ月を要し、出願より許可迄三月も掛るのでは忙しいものがアマチュアになることは不可能で一応志のあるものも諦めてしまうであろう。多数のアマチュアを育成するためにも、古いお役所気質をこの際振り捨てるという意味でも手続は思い切つて簡素化したいものである。そして多数の協力が何よりもアマチュア無線に必要なのである。

3. 電力制限を入力 1 キロ・ワット迄認めること。

昔と違つて多数の局で混み合い、大電力を使用する局の多いアマチュア帯では相当の電力を用いねば通信は出来難い。又新しい試みを送信機に採用して行く上にも電力の制限があつては満足な実験も出来難い。部分品入手困難な折柄急速に 1kW 入力の局を設備しうるものは幾人も居るまい。技術が進まぬのに大電力の使用を許しては他通信に妨害を与えるであろう。等々かような官僚的因循姑息な懼の念が今迄どれ程我が国技術の発達を阻害して來たことであろう。障害を克服せんとする処に技術の発達がある。一方アマチュア自身は自主的に粗悪な電波を出すことは厳に避けたい。電力よりも要は電波の特質の優劣如何が問題である。前述の如き抑圧政策を取りたく感ずるような官吏諸君は今後の日本に自分が不適当な人間である事を自覚して宜しく責任ある地位を去つて頂きたいと願うのである。

4. 執務時間制限を撤廃すること。

電波伝搬の研究を行うためには四六時中のデータが必要である。又アマチュアは他に本来の職業を有し、その寸暇を盜んでは好きな道に没頭したいというのに、意味のない時間制限があつてはアマチュアの数を激減される懼れがある。一方放送受信機への妨害については極力策を施すならば防止不可能の場合は殆んど無いと云つて良いであろう。

5. 国際的にアマチュアに割当てられた周波数帯全部を認める事。

今迄のように各局波数帯の各一点にのみ日本の全アマチュア無線局を置くが如き規則は今迄かつて誰も守つたことのない悪法である。数十もの局が同じ周波数にあって誰が満足に通信を行い得るであろうか。国際的にアマチュアに認められた周波数帯は当然アマチュアが使用する権利を有するのである。その中の一部は他通信と共に用するということになっているが、之とても日本のアマチュア局のみそこから除外してみても他局のアマチュアからの混信に悩まされるであろうし、又あまりに混信がひどければアマチュア自身が自然に使用を避けるに到るであろう。従つて規則の上では当然全周波数帯を開放すべきものである。

6. ポータブル局を許可すること。

たびたび述べたようにアマチュア無線は自らの興味を満足している中に自然にその本来の使命を果して行く点に醍醐味がある。アマチュア同志連れ立つてピクニックに行き相互に通信を交してはその行を更に楽しくする。之は純然たる自己の興味の満足である。しかしこのような通信を行い得るためには独立した電源をもつ送受信機を備えねばならない。このことが一旦非常時に際し電灯線も故障してしまった時にも、他の公衆通信に代つて通信を行う設備を常時備え得ることになる、之が逆に単に非常時に備えて、用もない常時から独立電源設備をアマチュア無線局は必ず備え置くべしという命令を出したとして、果して幾人がそれを設備するものであろうか。

通信内容を自由にして初めて通信に興味を抱くようになり、かくして海外諸国のアマチュア同志が胸襟を開いて国際親善の実を挙げ得るのである。又無償で地人の電報を取扱つて奉仕の喜びを感じる中に自然に電報送受の才能が高まり、一旦非常時に際して公衆通信に代つて威力を發揮するのである。それを非常時に際してお前は電報を取扱わねばならない。その才を磨くため講習会に出席せよといつて果して何人の出席者が得られるであろうか、電報取扱を許したからといって官製電報収入減少の懼れは毫もないこと確実である以上、又現在の日本で今迄の慣例を守ることは無益である以外の何ものでもない以上、そしてどんなに些少な通信迄もお上の手に収めておかねばならないという理由は何もない以上、電報取扱を原則として許すことに何の躊躇が要るであろうか。之が許せぬという人にその理由を問い合わせたいと思う。アマチュア無線は各人の興味に基いて最も自然にその目的を達して行くのである。

以上が規則改正を要求せる要点であるが、一方日本アマチュア無線連盟としては急速にその体制を確立し、アマチュア無線奨励の積極的具体的な方法を実行に移し、かつ不良電波等の監視等自主的取締りもなして行きたい考えである。その具体策の一例を挙げれば

- 1) 機関雑誌を発行し、アマチュア相互の連絡を緊密にし、その技術向上、初心者啓蒙を計ること。
- 2) 連盟本部ステーションを開設しアマチュア無線局の模範たらしめ、各局の周波数測定、不良電波取締に任し、且つ基礎的応用的各種の実験を行うこと。
- 3) 各会社の緊密な連絡をとり、各最新部分品の多量廉価供給をなし、且つその改良を心懸けること等が差当たりの計画である。

アマチュア無線が平和的交渉の日本再建設のささやか乍ら輝かしい星となり得んことを我々は常に希望しつつある。

打明話

“空中線出力 10 ワット以下” というのは日本のアマチュア・ステーションが許可されるときの定り文句で、日本のアマチュアは、僅か 10 ワットの電力で世界を相手に通信し、その 10 ワットは、アメリカの 1 キロ・ワットに匹敵する効果をあげていたことになっていた。だから、日本のアマチュアは、アメリカのアマチュアよりその実質に於て——電力の不足を運用で補っていたという点で——100 倍の腕がある、なんて自惚れたら大間違い。まして、アマチュア・ステーションの電力は入力 20 ワットで充分だ、などと考へる人があつたら認識不足これより大なるはなしである。そんな人は、世界最大のアマチュア・ステーション（電力の点で）は日本にあった、なんて話を聞いたら氣絶をするだろう。支那事変の

始まった当時に於てすら日本には入力 3 キロ・ワット程度のステーションはごろごろしていたんですね。アクチブな人の 500 ワットは通り相場、アメリカと電話で受信した人はすくなくとも 100 ワットを入れていたことは、小生の経験上間違いない。それは、それが必要な最低電力だからである。
(ex-J2PU 斎藤 健)

PDF 化にあたって

本 PDF は、

『無線と実験』1946 年 2 月号

を元に作成したものである。

PDF 化にあたって、旧漢字は新漢字に、仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館 (<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。